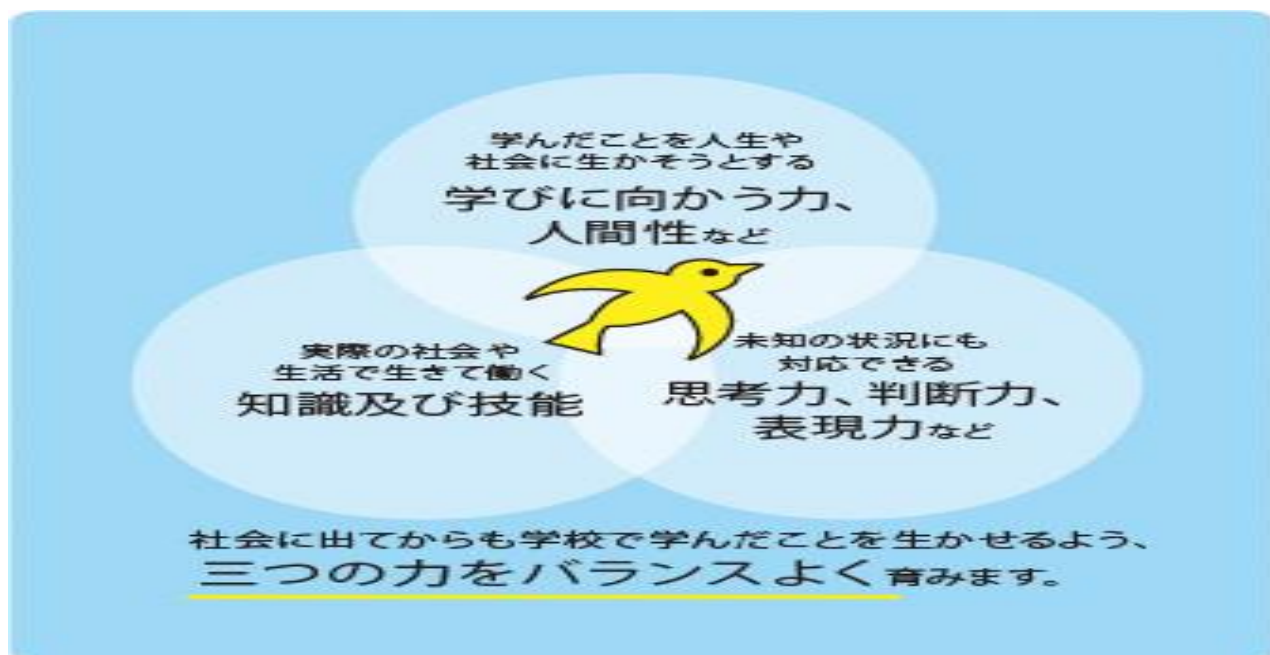


## 「2030年問題について、夏休みに考えてみた」

少し難しい話をできるだけ簡単にしますので、しっかり聞いてください。

皆さんは 2030 年問題という言葉聞いたことがありますか？一言でいうと 2030 年の世界は少子高齢化や A I の発達により、大きく変化し、これまで誰もが経験したことがない時代に突入する、というものです。私はこの話を夏の校長研修で聞いて以来「2030 年に備えて、どのような教育が子供のためになるのだろうか？」と考えました。その答えは下記のように文部科学省がだしてくれています。(文部科学省新学習指導要領 H P より)



簡単に言えば、これからは「三つの力をバランスよく育む教育」が必要とされています。では、その為にいまみや小中一貫校でできることは何だろう？と考えました。三つの力のうち、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力」の育成はこれまでもしっかりやってきた。これからは特に「学びに向かう力」が一番必要となってくるのでは？と思うようになりました。「学びに向かう力」＝「夢・好奇心・好きなこと」と考えると、いまみや小中一貫校を児童生徒たちの夢や好奇心を育てることができる学校にしなければならぬと決意した夏でした。